

鹿屋市国際交流協会だより

～グローバル～

2025年
10月発行 No. 33

かのやし
こくさいこうりゅう
きょうかいだより

かのやしこくさいこうりゅうきょうかい
鹿屋市国際交流協会

(KIEA : Kanoya International Exchange Association)



KIEA(キア)は、市民・民間団体・行政が協力して活動する国際交流団体です。平成8年に発足しました。外国文化の紹介や、地域での国際交流イベントなどを開催しています。

会長あいさつ

市民の皆様には、かねてより当協会の活動に対するご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、去る7月の参議院議員選挙においては争点の一つが外国人問題となりました。鹿屋市においても、現在では1,300人を超える外国人が在住しており、今後も全国的に増えていくことが予想されます。ある自治体では在住外国人とのトラブルの事例も報告されているようです。

そのようなトラブルの一つの原因は、異なる歴史や文化を背景に持つ人々の相互理解と尊重の不足ではないかと考えます。当協会は、草の根の国際交流を通じた異文化理解や尊重をモットーに、コツコツと活動を続けたいと考えております。

これから変わらず少しでも会員や市民の皆様のためになる活動を地道に続けてまいりますので、ご指導、ご助言を賜りますよう、また協会の活動に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

かのやしこくさいこうりゅうきょうかい
鹿屋市国際交流協会 会長 坂元 浩幸

鹿児島県青少年国際協力体験事業

「世界へ飛び出せ! Study tour in ベトナム」

派遣帰国報告

国際性豊かな人材の育成を図ることを目的として実施された本事業に、鹿屋市国際交流協会の推薦により、鹿屋女子高等学校(3年生)の四郎園 茜音さんと串良中学校(1年生)の近藤 夕香さんが参加されました。

●どのようなことが最も印象に残っていますか?



四郎園 茜音さん

村の人たちが、ホームステイ最終日にお別れ会をしてくれたことです。みんなが集まって準備をしたり、話をしたりする中でベトナム人の温かさを感じました。(以降:④)



近藤 夕香さん

現地の中学校での交流が一番印象に残っています。同じ年代で話をするのは楽しかったです。ベトナム語や英語で話しました。なかなか伝わらないこともありましたが、ベトナム語の指差し帳やジェスチャーで通じ合えました。(以降:⑤)

●ホームステイ中は、どのようにして過ごしましたか?

④ ホストファミリーと一緒に親戚の家に行ったり、他団員のホームステイ先に行ったりしました。それから、市場に買い物へも行きました。

⑤ ホームステイ先の子どもたちとポケモンカードをしたり、折り紙を折ってあげたりしました。隣に住んでいる親戚もみんな一緒に食事をして、ずっとにぎやかに過ごすことができました。日本では珍しいフルーツも食べさせてもらって、とてもおいしかったです。

7月19日 (土)	結団式 - 鹿児島空港出発 - (韓国) 仁川国際空港 - (ベトナム) ノイバイ国際空港到着	ホテル泊
7月20日 (日)	AM ベトナム民俗学博物館など見学 PM ホストファミリーと合流	トゥオン地区でホームステイ
7月21日 (月)	AM 現地中学校を訪問、交流 PM ホストファミリーと過ごす	トゥオン地区でホームステイ
7月22日 (火)	終日 ホストファミリーと過ごす	トゥオン地区でホームステイ
7月23日 (水)	AM 青年海外協力隊 加藤隊員の活動を視察 PM ホストファミリーとお別れ	ホテル泊
7月24日 (木)	AM 青年海外協力隊 松葉隊員の活動を視察 PM JICA(国際協力機構) 現地 事務所訪問	ホテル泊
7月25日 (金)	終日 ハノイ視察など (ベトナム) ノイバイ国際空港出発	機内泊
7月26日 (土)	(韓国) 仁川国際空港 - 鹿児島空港到着 - 解団式	機内泊

友達になっ
て
ください!

鹿屋市国際交流協会のイベント情報などをお届けしています!

LINE公式アカウント
LINEアプリの[友だち追加]
から登録してください。



LINE公式
アカウント



方法① 左の二次元コードを撮影
方法② ID検索 @478disiv

●ベトナムでは何語が話されていましたか？
ベトナム語、英語

●ホームステイ先では、何が主食でしたか？
米、パン、麺

●ベトナムと日本の共通点と相違点を教えてください。

【共通点】

- ・食事はお米を食べて、お箸を使って食べる。
- ・英語学習をしていること。
- ・夏休みがあること。



【相違点】

- ・食事の時、床の上にお皿を並べてあぐらで食べる。
- ・9月から新学期が始まること。
- ・法律を厳しく守る人が少ないこと。

●派遣中、困難なことや苦労したことがあれば教えてください。

④意思疎通することが難しかったです。英語学習が日本よりも進んでいるとはいえ、苦手な人も多く、ほとんどがベトナム語で話していました。アクセント、イントネーションの違いが難しかったです。



⑤ 食事の量が多くて、日本で食べているものと違ったので、胃もたれました。ホストファミリーが優しく身の回りの世話をしてくれたので、困ることはあまりなかったです。

●JICA 海外協力隊員の活動視察を通じて、どのようなことを感じ、学びましたか？

【視察先】

隊員	加藤 飛波 隊員 (ハロン大学 / 幼児教育)
活動内容	公立大学の付属幼稚園において、3～6才の就学前児童を対象として遊びを通した学びや情操育成のための指導を行い、自らの知見や経験を同僚教諭と共有する。

隊員	松葉 遥花 隊員 (ハイフォン市児童文化会館 / 青少年活動)
活動内容	港湾都市にある青少年教育施設において、15歳までの子どもたちに対して日本文化などの紹介や日本語授業を行いながら、ベトナムとの相互理解を促進する。また、配属先が開催する子ども向けのイベント等への支援をする。

④日本での活動をするのではなく、ベトナムにいった活動をしていました。加藤隊員が日本に帰国しても持続することができることをベースにしている、驚きました。

松葉隊員は、日本での企画力を生かしてベトナムでも活

動していました。この企画力は子どもの頃に勉強以外の体験をたくさんしてきたからだとしており、体験学習ほど良い経験はない、と感じました。また、彼女は日本に仕事の席を置きながら協力隊員として活動していて、JICAにはたくさんの参加方法があり驚きました。

⑤ 加藤隊員は、日本の文化を現地の人に伝えていて、日本語クラブを見学文化会館で開き、巻き寿司や七夕、お正月の行事を一緒にしていました。現地の人に漢字を教えるのは難しそうだなと思いました。私たちには何気ない行事ですが、きちんと伝えられるように学んでいきたいとおもいます。

松葉隊員は、女性の権利を高めるために積極的に活動してとても素晴らしいと思いました。民族によって、女性の立場がいろいろ違うようで、これからは、どこの国も女性の権利保護とジェンダー平等を進めていかなければならないと思いました。

●今回の派遣を通じて、どのようなことを学びましたか？

④ 今回の派遣を通して、国際協力、国際交流の必要性を学びました。JICA 隊員や事務所職員の方々の話を聞いて、国際交流をすることで、必要な支援が分かり、持続的な国際協力をする事ができることを知りました。国際交流は、日本や鹿屋市でもできるため、国際交流や国際協力のハードルが下がりました。

⑤ 英語やベトナム語を使って話すことが初めてでしたが、とても楽しくコミュニケーションをとることができました。うまく伝わらない場面も多かったのですが、言葉が通じなくても仲良くなることができました。

●今回の体験を今後どのように活かしていきたいですか？

④ 今回の体験を生かして、相手に寄り添った対応が可能な警察官になりたいと改めて思いました。また、ベトナムからの技能実習生が多いことを聞き、英語だけでなくベトナム語も話せるよう、これからも学習を続けていきたいと思ひます。

⑤ 今回のホームステイを経験して、今まで以上に海外に興味を湧いてきました。今後もっと日本のこと・日本文化や英語を学び、将来に活かしていきたいです。

●なんでも一言

④ 最後の夏休みに、現地での生活を体験したり、交流したりすることができて、とても良い経験をする事ができました。

⑤ 私にとって初めての海外で、ホームステイをすることができて、この一週間はとても思い出に残るベトナム研修でした。この研修に参加できて本当に良かったです。

シンカムオン！ベトナム！
(ありがとう！ベトナム！)



★次回の鹿児島県青少年国際協力体験事業は、令和8年春ごろに募集を行う予定です。
鹿屋市国際交流協会HPや公式LINEで情報を逃さずGETしよう！



名前: Ilesha Marie Patience Milford
(外国語指導助手 (ALT))
出身: アメリカ合衆国
イリノイ州 バーウィン

● 故郷について教えてください。

私は兄と祖父母と共にイリノイ州バーウィンで育ちました。バーウィンはシカゴの郊外にあり、電車に乗って25分程でシカゴの中心部まで簡単にいくことができます。シカゴには多くの電車やバスがあり、中心街にある多くの博物館や観光スポットに行ったり、ビーチを楽しんだりできます。

● 日本に来た理由を教えてください。

初めて日本を訪れた後、日本と日本文化をもっと学び、体験したいと思い、別府の大学に2年間通いました。その間、治安の良さ、親切な人々、美味しく健康的な食べ物、美しい景色、豊かな歴史、そして素晴らしい温泉に魅了されました。再び日本を訪れることができるととても嬉しいです。

● どこで、どんな仕事をしていますか？

派遣会社であるインタラックを通じて東串良町教育委員会に所属するALTとして、東串良町内の複数の学校で英語を教え、英語教育を支援しています。

● あなたの学校の良いところを教えてください。

先生方はとても協力的で、理解しようとしてくれます。そして、様々な方法や活動で私のスキルを活かせるよう、できる限りのことをしてくれます。まるで家族のように支え合える学校で働けるのは、本当に幸運です。

● 生徒について教えてください！

生徒たちは、最初は恥ずかしがりますが、すぐに打ち解けて世界への好奇心が旺盛になり、勇気を出して一生懸命英語で話そうとします。低学年の子どもたちは英語に少し苦労するかもしれませんが、エネルギーに満ち溢れ、日々の経験をできる限り私と共有しようとしてくれます。

● 鹿屋での生活とアメリカでの生活にはどのような違いがありますか？

私は人口が多く賑やかなシカゴ郊外で育ちましたが、鹿屋に来る前の数年間は、イリノイ州南部の田舎にある学園都市で働き、暮らしていました。その場所と鹿屋には多くの共通点がありますが、大きな違いは、鹿屋の方がはるかに安全であるということです。だからといって警戒を怠ってはいけないうちういといっているわけではありませんが、アメリカの田舎の方が、はるかに多くの警察の存在が必要だと感じました。さらに、鹿屋では、イベントやお店、さらには自宅にまで、わざわざ声をかけてくれたり、歓迎してくれたりしてくれる人がいます。私は知らない人に少し恥ずかしがりますが、皆が私に気軽に話しかけてくれて、とても嬉しく思っています。

● アメリカで恋しいものは何ですか？

もちろん、家族や友達に会えないのが寂しいですが、アメリカで恋しいのは、アメリカでは乳製品を使わない食べ物の選択肢が豊富なことです。私は乳製品を食べることができません。日本のデザートのはほとんどは牛乳が使われているので、食べられるものはほとんどありません。一方、アメリカでは、乳製品を使わないアイスクリームやその他の製品が豊富にあります。

● イリノイ州について日本の皆さんに伝えたいことは？

イリノイ州は主にシカゴ市があることで知られています。科学産業博物館、ブルックフィールド動物園、リンカーンパーク動物園、シカゴ美術館、ミレニウムパークなど、楽しい場所がたくさんあります。また、ネイビーピアやビーチ沿いで開催される数多くの音楽、季節ごとのイベント、文化イベントもお忘れなく。

● アメリカ旅行でおすすめの観光スポットを教えてください！

イエローストーン国立公園をはじめとする国立公園や樹木園は、自然愛好家にとって素晴らしい場所です。都会が好きならシカゴは素晴らしい選択肢ですが、アメリカには他にも素晴らしい都市がたくさんあります。ミズーリ州セントルイスの市立博物館もそうです。まるで大人のための博物館の遊び場のようなのです。

● 鹿屋の皆さんにメッセージをお願いします。

鹿屋の皆様、私や鹿屋に住む外国の方々に、本当に親切にさせていただき、本当に感謝しています。私たちの中には、日本語のスキルを必要としない仕事に就いている人もいて、基本的なルール以上の日本のルールや文化を理解するのに時間がかかるので、いつも心配しています。鹿屋の皆様にとって負担になることは承知していますが、皆様のご理解と温かいご指導のおかげで、私たちは社会をより深く理解し、より良い一員となることができました。ありがとうございます。





■名前: **Wang Jonathan**
ジョナサン
(鹿屋市国際交流員(CIR))

■出身: **カナダ・トロント市**

みなさん、こんにちは。

このたび8月6日より鹿屋市国際交流員として着任いたしました、ジョナサンと申します。カナダのトロント市から参りました。

「トロントとはどんな街ですか?」という質問は、着任以来、数えきれないほどいただきました。ですが、ふと気づくと、そのたびに違う答えを返している自分がいました。

ある日には、「トロントとは、多様性がある活気に溢れる街だ」と答えました。

実際、トロントという空間には何十もの言語が飛び交い、宗教も文化も価値観も、互いに交差しながら共生しています。時に緊張を伴うこともありますが、それこそが「共存の実験」とも言えるこの街の現実です。この答えは、きっと間違いではないでしょう。

しかし、また別の日、大雪の中で大学の試験を終えて帰る途中、私はこう感じました。

「トロントは、沈黙なところだ」と。

厳しい寒さの中、路面電車と車の騒音で、街がいつも通りに騒がしかったですが、どこか空虚に思えました。どうしてそう感じたのだろうと、街をよく観察すると、人々は口数を減らし、内面へと沈み込んでいました。そこに聞こえる賑やかさはどれも機械的で、人と人の交わりに欠けていました。それもまた、トロントの真実の一部でしょう。

こうした様々な答えのどれもが、間違っはいいません。そして、どれもが正解でありうるという事実こそが、トロントという街の「真なる姿」を物語っているのだと思います。

つまりトロントは、絶えず変化し続けている街なのです。現在、トロント都市圏の人口は約700万人。今年お年間20万人以上のペースで増加を続けています。比率で見ても、

常に北米トップ5に入るほど、驚異的なスピードです。このような街では、人々は「変化」とともに暮らしています。

昨日までなかったレストランが突然近所にオープンしたり、朝までは普通に通れた道が午後には突然工事で封鎖されていたり、日々、変化に適応しながら暮らしているのです。

トロントという街は、今日の姿と明日の姿が大きく異なります。その速さに戸惑いながらも、常に「今」を生きることを求められ、それがトロントです。

さて、「国際交流員として、どんなことがしたいのか?」この問いも、同じぐらい聞かれています。

ありがたいことに、この質問への私の答えは、毎回変わることはないです。

私が目指しているのは——言語や文化、立場の違いなど、コミュニケーションを妨げる「壁」を取り払い、それらを人と人をつなぐ「橋」に変わっていくことです。

翻訳や通訳、異文化交流イベントなどを通して、自分自身が友人をつくるだけでなく、参加者同士が新たなつながりを見つけられるような場をつくっていきたいです。そして、そのつながりが、地域のコミュニティをより豊かであたたかいものにしてくれることを願っています。

国のレベルで進められる国際理解や国際関係も、もちろん非常に重要なことです。けれども、それは少し、私自身の使命とは異なると感じています。

私が目指しているのは、もっと草の根のレベル、つまり、個人と個人が会い、対話を重ねていくような、身近で温かな国際交流です。

そうした一つひとつのつながりを大切にしながら、鹿屋市で活動していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



かい いん だいいしゅう 会員・スタッフ大募集!!

かいいん かいふたはボランティアスタッフとして、かつどう さんか
してみませんか?

かつどう ようす じょうほう どうきょうかい
活動の様子やイベントの情報は、当協会のホームページや公式LINEで発信しています。ご興味ある方は、お気軽に お問い合わせください。



ホームページ

じょうほう
イベント情報などを
とど お届けしています!



こうしき
公式LINE

こんご よてい ■今後のイベント予定

11月15日(土) 第7回外国人日本語スピーチコンテスト
12月14日(日) クリスマスお菓子の家づくり
1月(日程未定) 新年交流会

— みんなの異文化交流ひろば(鹿屋市との共催事業) —

にってい しょうさい
日程などの詳細は→
こちらからご確認ください。

